

各部門活動内容

企画・コーディネート部門

被災自治体の要望等を把握し、福島大学が有する人的・知的資源とのコーディネートを行う。また、復興支援活動における産学官の連携や国・被災自治体等からの事業の受託、民間団体からの寄附金受入れ等を行う。さらに、復旧・復興をテーマとしたシンポジウムを開催するほか、各種イベントにおいてFUREの活動を紹介している。

こども支援部門

被災により課題を抱えた子どもや保護者に対して、「支援知」を生かしたきめ細やかな課題解決の支援を行う「相談室ほっとルーム」を開室する。また、子どもたちの「自分らしさを生かし他者と協働する力」の育成を目指し、地域力を活用した「学びの場Room“Leaf”」を開室する。さらに、災害を経験した子どもたちの防災力の向上を目指し、「災害経験知」を生かした防災教育を実施する。

地域復興支援部門

避難地域12市町村をはじめとする福島県内自治体の地域復興政策の立案や復興まちづくり事業を推進するための支援を行う。また、有形文化財の保護活動や、文化財を活用したまちづくり、東日本大震災関連資料の収集・保存や活用に向けた活動を行う。さらに、災害公営住宅におけるコミュニティの構築についての調査研究を行うとともに、福島県での教訓を教材とした防災教育の開発や発信を行う。

相双地域支援サテライト

被災地域と大学とを繋ぐ現地の拠点として活動している。地域再生を目指し、コミュニティ再生や教育環境の整備など、住民に寄り添ったソフト面の支援を行う。また大学が持つ知見を活用した農業再生支援や、住民と行政・自治体間の連携促進に向けた取組み等を行う。富岡町・浪江町に設置している。

活動報告についてはWEBサイトをご覧ください。



夜の森桜トンネル（富岡町）

FURE

福島大学

うつくしまふくしま未来支援センター

〒960-1296 福島県福島市金谷川1番地

TEL 024-504-2865 FAX 024-548-5244

E-mail fure@adb.fukushima-u.ac.jp

URL <https://fure.net.fukushima-u.ac.jp/>

FURE 🔍 検索

2021.5



<表紙>高村光太郎の作品の著作権保護期間は、2007年12月31日に満了しパブリックドメインとなっております。

FURE

福島大学

うつくしまふくしま未来支援センター

Fukushima Future Center for Regional Revitalization



安達太良山

智恵子は東京に空が無いといふ、
ほんとの空が見たいといふ。
私は驚いて空を見る。
桜若葉の間に在るのは、
切っても切れない
むかしなじみのきれいな空だ。
どんよりけむる地平のぼかしは
うすもも色の朝のしめりだ。
智恵子は遠くを見ながら言ふ。
阿多多羅山の山の上に
毎日出てゐる青い空が
智恵子のほんとうの空だといふ。
あどけない空の話である。

高村光太郎『智恵子抄より』

ごあいさつ

うつくしまふくしま未来支援センターの現在

菊地 芳朗

うつくしまふくしま未来支援センター長

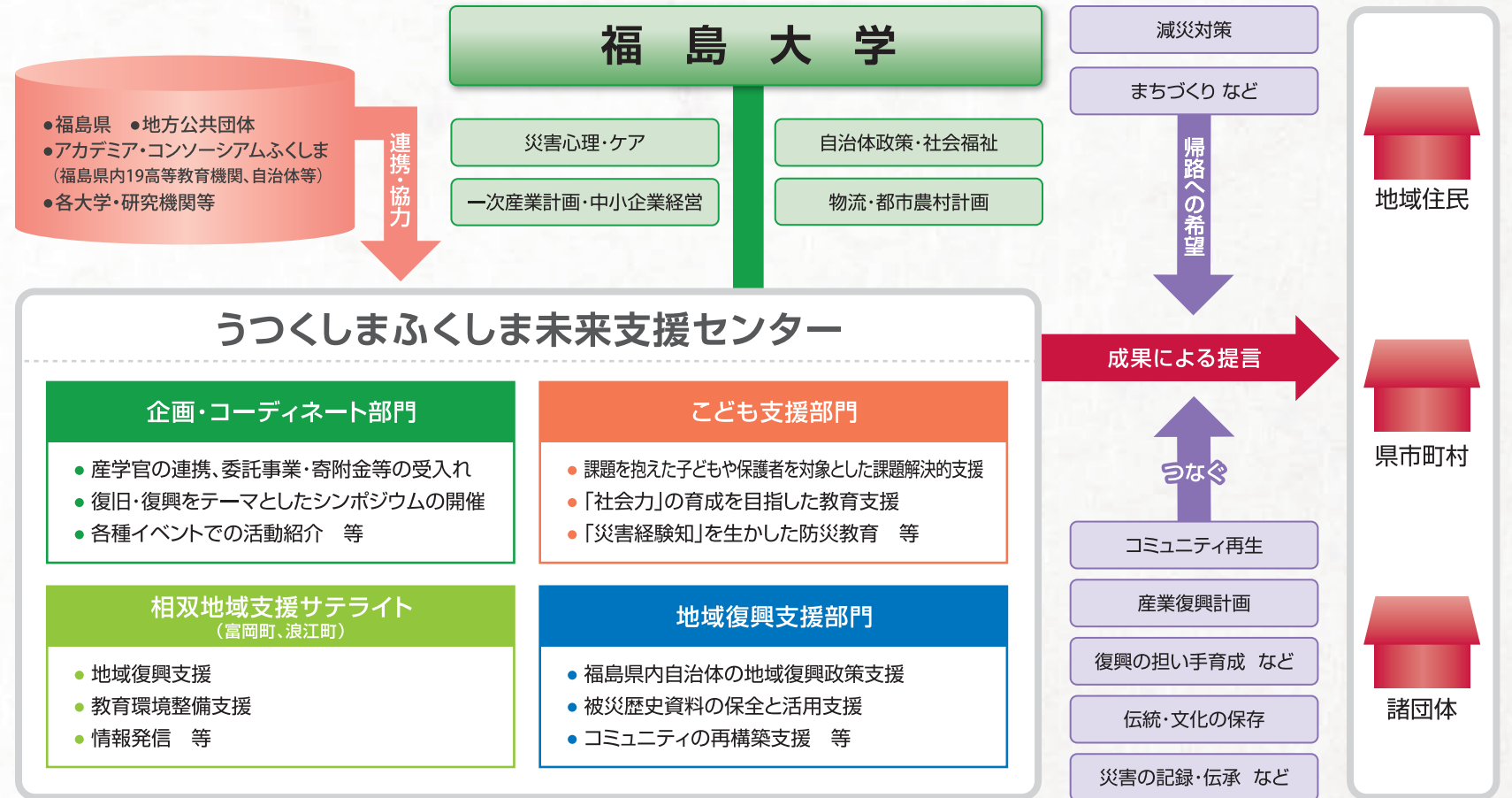
福島大学「うつくしまふくしま未来支援センター」(通称「FURE」)は、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故の発生直後、2011年4月に設立されました。設立の目的は、大地震・津波による大災害と放射能汚染によって避難を余儀なくされた福島の被災者と被災地域の復旧・復興を支援することにあります。震災発生から10年を迎えた現在も、依然として県内外に3万人あまりの方々が避難を続け、避難指示が解除されていない地域もまだ7市町村を数え、復興は道半ばの状況です。これらの方々への支援と地域復興のために、FUREの果たすべき役割は小さくありません。

震災から10年を経て、FUREの組織も大きく変わりました。集中復興期間の終了と復興・創生期間の設定を受け、復興庁の補助金による運営から文部科学省の運営費交付金による運営へと転換し、支援のみならず研究や教育への貢献も期待されています。また、食農学類の設置にともない、これまでFUREが行ってきた農・環境に関する復興支援活動は、食農学類に移管されました。

以上にともない、2019年度からFUREは組織の一部改編を行い3部門構成としました。「子ども支援部門」では、避難を強いられた子どもたちへの支援を行い、「支援知」を教育研究へとフィードバックしています。「地域復興支援部門」では、避難地域の帰還・生活再建に向けた様々な支援活動や、復興公営住宅におけるコミュニティの構築、震災関連死問題への対応、商工観光業の振興支援、避難地域に残されたままの文化財の保護、防災教育の推進などについて活動を進めています。「企画・コーディネート部門」では、県内外の多くの自治体や機関と連携した様々な活動のほか、富岡町と浪江町に設置したサテライトを拠点に避難指示解除地域の復興に協力しています。

震災から10年がたち、被災者や被災地域の置かれている状況は急速に変化してきています。地域によって必要とする支援が違ふ、同じ地域でも人によって必要とする支援が違ふ、同じ人でも必要とする支援が変化している、そのような中で、個々に応じた支援が求められています。支援をする側も、このような状況の変化に対応していかなければなりません。常に自らを刷新していかなければ、被災者が求める支援を行うことはできないのです。FUREはこれからも被災者と被災地のために全力で活動していきます。今後とも多くの方にご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願ひいたします。

FURE概略図



FURE組織図

